

2019年度

さくらんぼ



5月号

社会福祉法人 舞鶴市社会福祉協議会

舞鶴こども発達支援施設「さくらんぼ園」(TEL64-5798・FAX62-9171)

子どもにとって、家庭は安心できる「基地」であってほしい。

「青葉若葉のさわやかな季節」は、5月の時候の挨拶の一つです。今、正に新緑のとき。青空を背景に若葉に包まれた山を見てみると、清々しい気持ちになります。木々は生きているなあと思います。5月は、生命の息吹を感じる時期です。

さて、長い連休が終わりました。「世間は休みだけれど、うちは…」という方もおられるかも知れませんが、いつもよりゆったりとお子さんといい時間を過ごされたのではないのでしょうか。

家庭は、「基地」みたいなところとも言えます。子どもは、外に戦いに行くわけではありませんが、例えば、「さくらんぼ園」という社会に行き、先生や友達と一緒に遊びや活動や学習をします。先生や友達に、「すごい。」と認められ、嬉しい気持ちになります。体をいっぱい使った動きをすることで、心が開放される心地よさを味わいます。しかし、いいことばかりではなく、自分の思う通りにいかず、悲しくなるときもあります。「さくらんぼ園」という社会で過ごすことは、大きな社会を知っている大人は、あまり意識することはありませんが、子どもにとっては不安な部分もあるはずで、自分の後ろで見守ってくれる保護者がいないわけですから。

子どもたちは迎えに来てもらって、家に帰ります。保育所や幼稚園なども同じで、子どもにとっては行くところなのです。外の社会では、楽しいことも嫌なこともいろいろあるから、子どもが戻るところ、家庭は、子どもが帰りたと思う家庭であってほしいと思います。家庭は、子どもにとって、自分を守ってくれる「基地」みたいなものだからです。ここで、また出かけるためのエネルギーを蓄え、次の日、元気に出かけるのです。日常の中では、家庭にもいろいろあるので、安らげる場所にならないこともあるでしょうが、基本的には安心できる場所であってほしいです。そのためには、子どもに、自分は大事にされているという思いをもたせてほしいです。大事にされるから、家庭は安心できる「基地」になります。そして、いつでも帰りたと思える「基地」があるから、外の社会でもがんばれるのです。

連休が終わり、お子さんと直接かかわれる時間は少なくなったと思いますが、意識して、直にお子さんと向き合える時間を作ってほしいと思います。お子さんとの「基地」作りです。

本日から、療育も再スタートです。「さくらんぼ園」は子どもにとっては外の社会ですが、よい経験を積み、家庭に帰らせたいと思います。

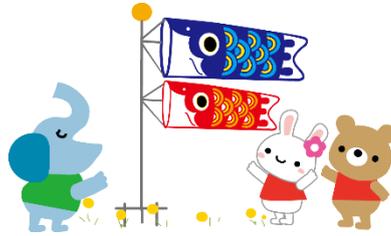
今月もよろしくお願いいたします。



園長 小谷 和弥
職員 一同

5月

療育表



月	火	水	木	金
		1 国民の休日	2 国民の休日	3 憲法記念日
6 振替休日	7 午前療育 午後療育	8 午前療育 午後療育	9 午前療育 午後療育	10 午前療育 午後療育
13 午前療育 午後療育	14 午前療育 午後療育	15 午前療育 午後療育	16 午前療育 午後療育	17 午前療育 午後療育
20 午前療育 午後療育	21 灘先生 午前療育 午後療育	22 午前療育 午後療育	23 午前療育 午後療育	24 午前療育 午後療育
27 午前療育 午後療育	28 午前療育 午後療育	29 午前療育 午後療育	30 午前療育 午後療育	31 午前療育 午後療育

5月の予定

*5月21日(火) 作業療法士：灘先生来園日

*臨床発達心理士*山下浩二先生に相談希望の方が
ありましたら、受け付けます。
(対応できる曜日が限られています。)

6月の予定



*6月4日より保育園や幼稚園・こども園の先生方
対象の公開療育を実施します。
(療育の様子を参観してもらいます。)

*6月21日(金) 作業療法士：灘先生来園日

*6月下旬頃、『卒園児の保護者を招いての学習会』
を計画しています。詳細が決まり次第ご案内します。

*5月20日(月)より親子療育(母親教室)です。

注：火曜日は28日に行います。(※発達支援ファイルを持参してください。)

4月のあそびのようす

新しいグループでの療育が始まり、こどもたちは担当指導員やお友達と楽しく遊んでいます。
幼稚園や保育所(園)、また、こども園での生活のリズムも安定してきたことでしょう。

しかし、環境の変化で慣れるのに時間がかかり、気持ちが不安定になる場合もあります。

一人ひとり個人差はありますが、苦手意識や不安な要素も周りの人のサポートや、安心できる
言葉がけなどによって少しずつ良い方向へと変わっていくと思います。お子さまの状況に合わせて
見守ってあげましょう。

さて、5月は親子療育があります。

こどもと一緒に遊びを体験してもらうことで、「こんなことができるんだね。」「この遊びって楽
しいね。」など、発見や気づきの時間になるようにと願っています。



主任 佐藤育代